

山行報告書

受付 No.	3 2 3	登山地・ルート	横岳 小同心クラック
目的	積雪期登攀技術の向上		
メンバー	L : 大山、松野		
行動記録			

月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム
1・20・日	晴れ	浜松＝美濃戸口～美濃戸山荘～赤岳鉱泉～ 取付 ～ 横岳 ～赤岳鉱泉 5:52 6:39 8:36 11:34 14:58 16:48 ～美濃戸～美濃戸口＝浜松 18:10 18:42

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

【浜松～美濃戸】 久々に松野さんとの山行。調子よくしゃべっていたら新東名の新清水ICをスルーしてしまい新富士で戻る。更に双葉JCTが突然現れてとっさの判断ができず東京方面に行ってしまいまた戻る。ハケ岳SAで仮眠して美濃戸口へ向かう。12月より雪が多かったが、美濃戸への林道へ突入。が、最後のカーブの部分の雪が深くて上がれず、チェーンを巻いても登れる保障はないし美濃戸口の少し手前のスペースに車を停めて歩いた。本当にあと少しだった。

【美濃戸～取付】 美濃戸から北沢沿いに赤岳鉱泉へ。意外に風が強いが休憩スペースには囲いがあり助かった。鉱泉にてアイゼンを装着して硫黄岳への登山道に入る。大同心沢のトレースを辿り、途中で大同心稜に上がるトレースに分かれる。分かれてすぐ、ツェルトにくるまった人と、傍に付き添う仲間2人。何だろうと思ったけど緊迫感はない感じだったので挨拶して通過。尾根に上がると急登になる。しばらく登ると上から3人組が下りて来た。こちらも挨拶してすれ違う。高度を上げると大同心が大きく見えてきて、先行者の姿も見えた。大同心の基部を通り、大同心ルンゼを横切る。ルンゼには雪は少なく、雪崩の危険は感じなかった。小同心の基部をトラバースして行くが、こちらは日陰で雪が多くちょっと嫌な感じのところもあり注意して通過する。取付に着くと、先行チームが1ピッチ目を登っていた。休憩と支度をしながら待機。

【取付～横岳】 取付は日当りはいいが風があったので寒く、ヤッケの下にダウンを着込む。先行チームはピッチを短く切っており、こちらは先行チームの2ピッチ分を1ピッチで行くつもりだったので、1時間くらい待って先行チームのフォローが2ピッチ目を出発したところで松野さんがスタート。前回と同じところで松野さんがピッチを切り、セカンドがスタートする。前回ここは自分がリードしてそんな難しかった記憶はないのだが…前回より傾斜を感じたうえにピッチの最後でちょっと苦戦した。2ピッチ目はそのままつるべで行く。チムニーを上がって通称「猿の腰掛け」の岩の間を上がるのだが、ここが狭くてダウンを着たまま着ぶくれた状態では登りにくかった。膝を使って這い上がる。さらに凹角を一段上がったところでピッチを切る。もうひと登りすればいいのは分かっているがロープが重くてどうにもならなかった。松野さんが上がってきてそのまま稜線に抜けた。そこで一旦ロープを回収し、雪稜を歩いて横岳直下の岩場へ。前回ももたもたした所で今回も3回くらいうろろ上がったたり下りたりして何とか上がり、横岳の山頂に出る。風が強くてコールが聞こえないので一段下に戻り岩角でビレイする。

【横岳～美濃戸口】 計画書ではここから地蔵尾根を下って下山の予定だったが、時間は15時を回っているし本日のコンディションなら大同心ルンゼを下れそうである(先行の3人組も下っていった)。今回は最初から大同心ルンゼは無理だろうと思って計画書に何も書かなかったが、時間的にここを下るのが合理的なので、山頂から残留の山崎さんに電話して大同心ルンゼを下る旨連絡を入れる。横岳のハンゴ・鎖場を慎重に下り、稜線を外れて大同心ルンゼの方へ下る。前回はロープの必要もなく下ったのだが、今回は雪が少ないのかクライムダウンできない箇所もあり、1箇所懸垂。さらに岩と草付のミックス

をバックステップでルートに注意しながら下り、朝のトラバースのトレースに戻った時はほっとした。大同心の基部を通過して岩場も終わり、あとは赤岳鉱泉まで一気に下りる。鉱泉で登攀装備を解き、ヘッドライトを用意して下山。美濃戸にて再び残留に安全圏に下りた旨連絡、車に戻り美濃戸口で最終連絡して温泉に寄って帰路に着いた。

紙面不足の場合は裏面へ

報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者
-----	----	----	----	---	---	---	-----



鉱泉のアイスクャンディと大同心・小同心



迫力の大同心



小同心基部のトラバース



1 ピッチ目



2 ピッチ目終了点 (バックは赤岳)



猿の腰掛け (左の岩)

座ると立ち上がるのが大変だが登って行くと自然にこの岩に座ってしまう…



横岳



大同心ルンゼを下る